令和８年度

自己評価　集計結果

令和８年　７月～８月　実施

社会福祉法人　愛光会

袋井ハローこども園

令和8年度　自己評価集計結果　　「はい」と回答した項目

		項目数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	平均値	順位	
総則	1、教育・保育の基本	14	12	8	12	13	11	14	11	12	12	13	13	12	12	11	12	13	12	13	11	11	12	14	13	10	10	12	12	13	11.9	20	0.852041
第1章 教育・保育の基本	2、教育及び保育の配慮	14	10	9	14	14	11	13	14	12	13	14	14	14	14	13	14	11	14	13	13	14	14	13	12	10	11	13	14	14	12.8	11	0.915816
	3、教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価	35	30		34			34	27		25	35	35	32				31		34	23	31	32		28	11	24	31	28	21	28.7	24	0.821053
	4、特別支援教育・障害児保育	9	8		8			9			6	8	9	7				8					6	8	8		5		8		7.5	21	0.837607
	5、「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期　の終わりまでに育ってほしい10の姿」	7	5	3	4	6	6	6	4	3	3	6	7	6	6	4	4	4	5	5	3	5	5	7	7	2	4	3	6	7	4.9	27	0.693878
	6、子どもの発達	14	14	6	14	14	14	14	14	13	14	14	14	14	13	14	14	14	14	12	14	14	14	13	14	13	12	14	14	14	13.4	6	0.959184
第2章「ねらい」及び「内容」	1、乳児保育に関わるねらい及び内容 (1)身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	10	10		10	10	10			10	10	10	10			10			10		7		10	10	10		10			10	9.8	2	0.98125
	(2)社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」	10	10		10	10	10			10	10	10	10			10			10		10		10	10	10		9			10	9.9	1	0.99375
	(3)精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」	10	10		10	10	10			10	10	10	10			10			9		9		9	9	10		10			9	9.7	3	0.96875
	2、1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容 (1)健康	10	9		10	10	10	10	10	10	9	10	10	10		10	10	10	10	10	8	10	10	8	9	10	8	10		10	9.6	4	0.964
	(2)人間関係	10	9		10	10	8	10	8	9	10	10	10	10		9	9	8	10	10	5	10	8	8	9	10	10	10		9	9.2	10	0.916
	(3)環境	10	8		10	10	10	10	8	10	10	10	10	9		10	9	10	9	9	4	10	8	9	10	9	10	8		8	9.1	12	0.912
	(4)言葉	10	10		10	10	9	10	10	10	10	10	10	10		9	9	9	10	10	9	10	10	9	10	9	9	10		9	9.6	4	0.964
	(5)表現	10	7		10	10	10	10	10	10	10	10	10	8		10	9	10	9	10	4	9	9	6	10	10	10	10		7	9.1	12	0.912
	3、保育の実施に関わる配慮事項(乳児・1歳以上3歳未満児)	10	8		10	9	9	9	7	8	9	9	10	9		10	10	10	9	9	7	9	10	9	8	7	9	9		9	8.9	14	0.888
	4、3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容 (1)保育内容「健康」	20	19	6	20	20	20	17	19	18		20		19		19	20	20	20	20		17	18	19	20		19				18.5	8	0.925
	(2)保育内容「人間関係」	20	16	8	18	20	18	19	18	18		20		19		19	18	19	20	20		17	18	14	20		16				17.8	15	0.8875
	(3)保育内容「環境」	20	15	9	15	19	18	17	16	18		20		16		19	14	17	16	18		13	19	16	20		14				16.5	23	0.8225
	(4)保育内容「言葉」	20	19	10	19	20	20	20	19	20		20		18		19	19	20	19	19		20	20	19	20		17				18.9	7	0.9425
	(5)保育内容「表現」	20	11	1	14	19	20	17	12	14		20		13		18	17	19	17	15		11	18	17	19		14				15.3	26	0.765
第3章 健康及び安全	1、健康支援	14	14	6	14	14	13	14	9	12	14	14	14	11	8	13	14	14	12	10	9	11	12	14	12	10	10	13	12	12	12.0	19	0.854592
	2、食育	11	11	6	11	10	9	11	9	11	10	11	10	11		9	10	11	10	11	5	11	11	11	11	10	11	11	11	11	10.1	9	0.922559
	3、環境・衛生管理、安全管理	11	9	7	10	11	9	11	8	11	11	11	9	8	8	10	10	10	10	9	8	7	11	11	10	6	8	8	9	7	9.2	22	0.834416
	4、災害への備え	13	13	7	13	13	13	12	10	11	13	13	13	11	10	13	11	13	13	10	6	11	11	13	13	7	10	11	11	11	11.3	18	0.868132
第4章 子育て支援	1、園児の保護者に対する子育て支援	10	9	0	9	10	6	9	7	10	10	10	10	9	9	10	10	9	10	9	8	9	8	10	9	8	8	10	9	9	8.7	17	0.871429
	2、地域における子育て支援	8	7	4	6	8	8	8	3	8	7	8	8	4	8	8	6	8	7	7	7	4	5	8	7	2	5	8	6	5	6.4	25	0.803571
第5章	職員の資質向上	15	15	8	15	15	15	15	14	12	14	15	13	10	13	10	13	14	15	15	10	14	13	15	14	9	12	14	13	12	13.1	16	0.87381
	「はい」個人合計	365	318	98	340	315	297	319	267	290	240	361	259	290	101	297	262	312	300	298	180	278	331	300	343	153	295	205	153	217	265		
	回答数個人合計		365	231	365	321	321	335	326	311	256	365	265	335	120	320	291	335	321	322	256	326	365	330	365	226	365	225	175	256			
	「はい」と答えた割合(%)		87%	42%	93%	98%	93%	95%	82%	93%	94%	99%	98%	87%	84%	93%	90%	93%	93%	93%	70%	85%	91%	91%	94%	68%	81%	91%	87%	85%	87%		

令和8年度　自己評価集計結果　　「いいえ」と回答した項目

		項目数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	平均値	順位	
総則	第1章 教育・保育の基本	1、教育・保育の基本	14	2	6	2	1	3	0	3	2	2	1	1	2	2	3	2	1	2	1	3	3	2	0	1	4	4	2	2	1	2.1	6	0.147959
		2、教育及び保育の配慮	14	4	5	0	0	3	1	0	2	1	0	0	0	0	1	0	3	0	1	1	0	0	1	2	4	3	1	0	0	1.2	17	0.084184
		3、教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価	35	5		1			1	8		1	0	0	3				4		1	12	4	3		7	24	9	4	7	4	5.2	7	0.147368
		4、特別支援教育・障害児保育	9	1		1			0			3	1	0	2				1				0	3	1	1	0	4	1	1		1.3	8	0.138889
		5、「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期　の終わりまでに育ってほしい10の姿」	7	2	4	3	1	1	1	3	4	4	1	0	1	1	3	3	3	2	2	4	2	2	0	0	5	3	4	1	0	2.1	1	0.306122
		6、子どもの発達	14	0	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0.6	22	0.040816
第2章「ねらい」及び「内容」	1、乳児保育に関わるねらい及び内容	(1)身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	10	0		0	0	0			0	0	0	0	0		0			0		3	0	0	0	0	0	0			0	0.2	26	0.015789
		(2)社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」	10	0		0	0	0			0	0	0	0	0		0			0		0	0	0	0	0	0	1			0	0.1	27	0.005263
		(3)精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」	10	0		0	0	0			0	0	0	0	0		0			1		1	0	1	1	0	0	0			1	0.3	25	0.026316
	2、1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容	(1)健康	10	1		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		0	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	2	0		0	0.4	23	0.036
		(2)人間関係	10	1		0	0	2	0	2	0	0	0	0	0		1	1	8	0	0	5	0	2	2	1	0	0	0		1	1.0	15	0.104
		(3)環境	10	2		0	0	0	0	2	0	0	0	0	1		0	1	0	1	1	6	0	2	1	0	1	0	0		2	0.8	18	0.08
		(4)言葉	10	0		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0		1	0.3	24	0.032
		(5)表現	10	3		0	0	0	1	0	0	0	0	0	2		0	1	0	1	0	6	1	1	4	0	0	0	0		3	0.9	16	0.092
	3、保育の実施に関わる配慮事項(乳児・1歳以上3歳未満児)		10	2		0	1	1	1	3	2	1	1	0	1		0	0	0	1	1	3	1	0	1	2	3	1	1		0	1.1	14	0.108
	4、3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容	(1)保育内容「健康」	20	1	14	0	0	0	3	1	2		0		1		1	2	0	0	0		3	2	1	0	0	1				1.5	20	0.07619
		(2)保育内容「人間関係」	20	4	12	2	0	2	1	2	2		0		1		1	6	1	0	0		3	2	6	0	0	4				2.3	13	0.116667
		(3)保育内容「環境」	20	5	11	5	1	2	3	4	2		0		4		1	1	3	4	2		7	1	4	0	0	6				3.1	5	0.157143
		(4)保育内容「言葉」	20	1	10	1	0	0	0	1	0		0		2		1	3	0	1	1		0	0	1	0	0	3				1.2	21	0.059524
		(5)保育内容「表現」	20	9	19	6	1	3	3	8	6		0		7		2	0	1	3	5		9	2	3	1	0	6				4.5	2	0.22381
健康及び安全	第3章	1、健康支援	14	0	8	0	0	1	0	5	2	0	0	0	3	6	1	0	0	2	4	1	3	2	0	2	4	4	1	2	2	1.9	9	0.135204
		2、食育	11	0	5	0	1	2	0	2	0	1	0	1	0		2	1	0	1	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.9	19	0.077441
		3、環境・衛生管理、安全管理	11	2	4	1	0	2	0	3	0	0	0	2	3	3	1	1	1	1	2	3	4	0	0	1	5	3	3	2	4	1.8	4	0.165584
		4、災害への備え	13	0	6	0	0	0	1	3	2	0	0	0	2	3	0	2	0	0	1	7	2	2	0	0	6	3	2	2	2	1.6	11	0.126374
子育て支援	第4章	1、園児の保護者に対する子育て支援	10	1	10	1	0	4	1	3	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	2	1	2	0	1	2	2	0	1	1	1.3	10	0.128571
		2、地域における子育て支援	8	1	4	2	0	0	0	5	0	1	0	0	4	0	0	2	0	1	1	1	4	3	0	1	6	3	0	2	3	1.6	3	0.196429
第5章		職員の資質向上	15	0	7	0	0	0	0	1	3	1	0	2	5	2	5	2	1	0	0	5	1	2	0	1	6	3	1	2	3	1.9	12	0.12619
		「いいえ」個人合計	365	47	133	25	6	26	17	59	31	16	4	6	45	19	23	29	29	21	26	72	48	34	30	22	73	68	20	22	28	35.0		
		回答数個人合計		365	231	365	321	321	335	326	311	256	365	265	335	120	320	262	335	321	322	256	326	365	330	365	226	365	225	82	256			
		「いいえ」と答えた割合(%)		13%	58%	7%	2%	8%	5%	18%	10%	6%	1%	2%	13%	16%	7%	11%	9%	7%	8%	28%	15%	9%	9%	6%	32%	19%	9%	27%	11%	13%		

令和８年度　自己評価

チェックリスト全体を振り返って、あなたにとって「気づき」の大きかったもの、特に印象深かったもの

・環境構成の大切さを改めて感じた。自然や身近なものへの気付きは、子ども自身が見つけることが多いが、その気付きを遊びや学びへと広げていくためには、保育教諭の援助や環境づくりが重要であると考える。子どもたちが自ら考えたり、試したり、友だちと関わりながら発見を深めたりできるよう、一人ひとりの興味や発達に合わせた環境を整え、主体的に遊びや活動に取り組める保育を心掛けていきたい。

・リズム遊びや楽器遊びは子どもたちの表現を豊かにする活動として取り入れていきたいと考えているが、現在のクラスではすぐに実践することは難しいと感じている。まずは、身の回りのことを自分で行えるようになったり、落ち着いて過ごせるようになったりすることを大切にし、子どもたちの育ちに合わせて段階的に活動の幅を広げていきたい。また、振り返りを通して、一人ひとりに応じたさまざまな配慮が必要であることを学んだ。子どもの姿をよく見ながら、今必要な援助や取り入れられる活動を見極め、無理なく保育に生かしていきたい。

・日々の作業的業務に追われて、園児に対する留意事項を怠っていると感じた。
今後は、園児の行動・表情により注目して、健やかな成長・健康・安全に気遣っていきたい。

・園児個々の情報を、より的確に得るよう自ら図っていきたい。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を再確認し、一人ひとりの成長に必要な体験が得られるような状況を作り、声掛けなどを通して丁寧に関わることで成長を促せるよう日々努めていく。年齢や個々に応じた関わり方や援助方法を保育を通して学んだり、見つけたりしてより良い保育が出来るよう努めていく。

・保育中は園でのきまりを繰り返し伝えたり、危ない行動があった際はすぐに間に入って止めたりして事故や怪我のないよう努めていますが、自らきまりの大切さに気付けるようにしていくという項目が印象的でした。年齢や個々の発達状況によって配慮している点は異なるが、園生活の中で子ども達が自発的にきまりの大切さに気付けるよう見守る事も大切だと感じた。

・５領域「人間関係」について
自らきまりの大切さに気付くようにしているかという設問に対して、守らなければいけないということを第一に伝えてしまっていると自分の保育を振り返ったときに感じた。なぜ守らなければいけないのか、その時々で毎回説明することは難しいかもしれないが、ただ単に「まもろうね」と声を掛けたところで、子どもは言われたからやったという意識しかなく、自分で考えようとしないことに繋がると思った。自分で気付くことが一番の学びになると日々の保育で感じることが多いため、子ども自身が自分で気付けるような配慮や関わり方を心がけていきたい。

・教育及び保育の配慮について
個々の発達に寄り添った保育をするよう心がけているが、自分の心や時間に余裕がないと、指示ばかりになったり強い口調での言葉掛けになったりしていると反省する。自分が焦っている時は、子ども達も落ち着いていないことが多く、怪我に繋がりやすいと感じるため、余裕がない時こそ深呼吸をしたり少しその場から離れたりするなどして落ち着かせるよう努めたいと思った。子どもも落ち着いて過ごせるよう職員間でもサポートし合っていきたい。

・今年度は、フリー保育教諭として様々なクラスに入り、年齢や発達段階、クラスごとの状況に応じた保育を実践することができた。自己評価チェックリストを振り返る中で、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら関わることや、担任・他職員と連携し、状況に応じて柔軟に対応することができたと感じた。また、どのクラスでも子どもの変化に気づけるように配慮することができた。多くの保育者の関わり方や援助方法を見ることができ、学ぶことで自信の保育の幅を広げることができた。一方で、日々の保育を振り返る中で、改善点も見つけることができ、自己評価を行うとこで自信の成長や課題を客観的に確認できた。

・自己評価を通して、自分自身ではできていると感じていたことも、さらに工夫や改善が必要な場面があることに気付くことができた。今後は、子どもの姿や発達をより理解し、一人ひとりに合わせた援助をさらに充実させるとともに、保護者や職員との情報共有を積極的に行い、園全体で子どもの育ちを支えていきたい。また、専門職として学び続ける姿勢を大切にし、研修で学んだことや他職員の保育から得た気づきを積極的に実践へ生かしていきたい。状況に応じた判断力や対応力をさらに高めながら、子どもたちが安心して過ごせる保育環境づくりに努めていきたい。

・幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿の理解を深めなければならないと感じた。その上で目の前の子どもの姿を見ながらその姿が 10 の姿のどの部分に当てはまるのかを考えながら子どもの育ちが促されるような声掛けや関わりが適切にできるようにしていきたい。そのためには子どもの行動や遊びの姿、会話のやりとり、興味関心があるものなど様々な子どもの姿を詳細に見て把握し、一人ひとりの子どもに的確な関わりをしていく力が求められると思った。

・先日受けた「育児相談研修会」で現在は子育ての相談を AI にする保護者も増えているがやはり対面での相談は大切であり AI が普及してきても保育教諭の職業はなくならないと講師がおっしゃっていた。日々子育て中の保護者と接していると子育てに悩んだり行き詰ってしまっている方々は多い。また夫婦共働きが主流となってきた現在の社会では子どもを 1 歳前後で入園させる家庭が多く、親が親として育っていない現状もある。このような社会の中で保護者支援は必要不可欠であるため、それぞれの保護者に寄り添いながら子育ての知識や技術、子どもへの関わり方などを伝えていきたい。

・ 今年度は、1，2 歳児の担任となり言葉でのやり取りがまだできない子どもたち向き合っている。チェックリストを通じて、自分でやりたい子どもの気持ちを汲み取りや子どもの気づきに寄り添い、応答的な関りができていたか保育を振り返ることができた。また、コミュニケーションに必要な言葉をていねいに伝えていくことの大切さも感じた。今後も自分自身も楽しみながら保育をしていきたい。

・イヤイヤ期の子育てに不安を抱えている保護者も多い。園であったちょっとしたエピソード、かわいらしい子どもの言葉や様子を伝えるよう心掛けている。保護者の表情や様子に配慮し、安心できるような声掛け、話しやすい雰囲気を心掛けたい。子どもの成長を一緒に喜びあえるような関係が築けるようこれからも努力していきたい。

・自分の保育について振り返りアドバイスをもらったときは、まずは受け止めるようにして自己理解をするように意識している。人の良い所をたくさん見つけて声をかけ、コミュニケーションを多くとるようにしていきたい。

・どのようにして言葉を伝えていくか、子どもの言っている言葉を拾ってあげられるか今後の課題になってくると感じている。子どもの発語に耳をかたむけ共感して、子どもにとっての理解者になれるように今後も意識していきたいと思う。

・五領域の人間関係の項目は、現在担当している５歳児クラスで重要な考えであると感じた。特に子どもが自分で考え、行動する体験ができるような生活や遊びを心掛けているかという質問では、自分の保育を振り返る機会となった。就学に向けて自分で考えて行動することはとても大切な力である。そのため日々の保育で子どもの意見を受け止め、アイデアを出せるようにしたり、理由を聞いたりする時間を大切にしている。当番活動では人前に立ち発表をするなど役割を持ち、達成感を味わうことができるよう意識している。しかし当番活動に慣れ、目新しさが無くなってきている様子も見られるため、季節や子どもの姿に合わせて仕事内容を工夫していきたい。

・言葉面では、子ども一人一人に分かりやすく温かな言葉で穏やかに話しかけることを改めて、心がけようと感じた。時間がない時など、少し待っていてほしいことを伝えたり、急かすような言い方になってしまったりすることもある。忙しい時ほど自分の心に余裕をもって、穏やかなやり取りを意識していきたい。保育教諭の言葉によって、子どもの気持ちが前向きになったり、逆に意欲が失われたりと言葉による影響は大きい。そのため、ユーモアのある言葉を用いたり、その子にあった言葉掛けをしたりと丁寧な言葉で伝えることを意識していく。

・未満児は特に、言葉で気持ちを表現するのが難しい部分があるため、保育教諭が気付き、声を掛けて関わってあげることが大切だと改めて感じた。また、できないからやらないのではなく、月齢に合わせてどんな活動だったらできるのか考えて様々な体験が出来るように日々の保育を考え直していきたいと感じた。
現在は室内遊びの玩具もワンパターンになってしまっているので、発達に合わせて環境を整えていきたい。

・食育についても食事が楽しいと思えるような雰囲気づくりに努めたいと思う。給食の中に入っている食材を伝えたり、「おいしいね」「これは苦手なの？」などと気持ちを代弁したりするような声掛けを心がけていきたい。給食中眠くなってしまう園児もいる為、対応が難しく感じる時もあるが、寝ながら食べることは危険なので、気分転換させたり、時には寝かせたりと園児の様子や食べ具合にあわせて進めていきたい。

・今回のチェックリストを通して、自分では意識して取り組めていると思っていた事でも、振り返ることで改善するべき点があるとこに気が付いた。日々の保育では子どもとの関りを大切にしているが、環境構成や保育の意図、根拠を十分に説明出来ない場面もあると感じた。今後は１つひとつの保育に目的を持ち、より質の高い保育に繋げていきたい。

・今回の自己評価では全体的に取り組めている項目が多かった一方で、さらに成長できる部分も明白になった。現状に満足せずに研修や美の実践から積極的に学びを得て自分の保育に活かしていきたい。また、また、子ども・保護者・職員から信頼される保育教諭を目指し、責任感を持って１つひとつの業務に取り組んでいきたい。

・健康支援の項目で、学校保健安全法などの法令やガイドラインを踏まえた対応ができているかというところで、普段から目にするものではないので、研修で習っても身についているか自信がないところだと感じた。

・園生活を送る際に直ちにきまりを伝えたり、守らせたりするのではなく自らきまりの大切さに気付くようにしているかという項目があり、ルールや生活の流れや生活習慣などを伝える際に押し付けになっているのかなと考えさせられた。自分で気付けたことに対しては子どもたちもやる気がでたり、行動に移したりしやすいと思うので、子どもの年齢や状況によって、声掛けの仕方を工夫していきたい。

・自園でも毎月地震や火災など様々な想定で防災訓練を行っているが、園周辺のハザードマップについてや過去に起きた災害についてなどを職員が知る機会はほとんどないと感じた。災害が起きた際に子どもたちの命を守ることが第一であるが、過去の災害にも目を向け万一の際にどう活かせるかを話し合う機会を持つことも非常に大切であると感じた。

・事務所勤務の中で、保護者の子育て支援が必要な場面が増えてきていると感じるが、自分が対応する際に上手く対応できていないと感じることが多い。先輩職員の対応の仕方を見て、声の掛け方や対応の仕方などを自分の対応にも取り入れていきたいと思う。保護者から信頼を得るには、日々の関わりも大切であるため、自ら積極的に声を掛け関わっていきたいと思う。

・一人一人に合わせた対応やいつでもうけとめること、穏やかにはなしかけることなどすべて大切で意識はしているが特にバタバタしているときはおろそかになってしまっていると感じた。心掛けていると実践しているは別なためどんなときもいっぱいいっぱいにならないように心にゆとりをもった行動をしたいと思った。特に不必要に使っているつもりはないが「だめ」や「いけません」は一日の中でたくさんつかってしまっているため否定形の言葉ではなく、その子どもが悪いとされている行動をしないように遊びに誘うことやその遊びが続くように興味を持てるようにしていきたい。

・　以前一度病院に受診した方が良い子どもを受け入れてしまったことがある。そのときは受け入れてすぐに先輩の保育教諭に症状を話したから保護者の方も帰る前に呼び止めることができそのあと病院に行ってもらう事が出来た。これは私がその症状を見極められなかったからこそ起こったことであり改めて感染症に関する知識やその疾患状態を改めて知っておくべきだと思った。特に健康及び安全の項目は私にとって一番心配な部分でありすぐに周りの先生に話し周りの先生に判断してもらっている部分が大きいため心配にならないという意味でも正しい知識を身に着けていきたい。

・子どもたちの自主性を大切にし、自分のやりたいこと、作りたい物などを選び、考えていけるように関わっているようにしている。しかし集団遊びの内容が同じものが多かったり楽器を使った遊びができていなかったりすると感じた。子どもたちが興味を持って遊ぶことができるように、子どもたちの興味に合わせたルールに変えたり、好きな音楽に合わせた楽器遊びをしたりして様々な経験を積むことができるように日々の活動を考えていきたい。また、興味に合わせて遊びが発展していくようクラスの先生とコミュニケーションをとり合い、声掛けをしたり環境を変えていったりしたい。

・支度に時間がかかる子対して「急いで」と急かすような言葉を使ったり、子どもたちがこれをして欲しいと伝えてきている場面でも「ちょっと待って」と言ってしまったりことが何回かあったと感じた。支度に時間がかかる子がいると、逆に待っている子もいるため自ら意欲的に支度ができ、待っている子も楽しむことができるようにしていきたい。また、子どもを待たせてしまう事も多いため、時間に余裕を持ち保育をしていきたいと感じる。どうしても対応できない時には、待ってほしい理由やどのくらい待ってほしいのかなどを伝えて丁寧に子どもたちと関わっていくようにしたい。

・最近は地震や水害被害など各地域で様々な災害が多く、起きているがこの地域での過去の災害状況など詳しく知らず、ハザードマップの見方なども詳しく分かっていないため、災害時において臨機応変に対応できるようにもっと情報を集め知識を増やしていく必要があると感じた。災害が起きてから慌てるのではなく、備えをしていきたい。

・保育環境は子どもの成長においてとても重要であるため、見直しや玩具の入れ替えなど定期的に行ってはいるが十分でないと感じている、日々の保育に追われ、余裕がないことも多いので保育の流れも見直し、環境を整える時間を作れるようにしていきた。月齢の差もあり、成長に合わせた環境を整えられるようにしていきたい。

・毎月の「イキイキ研修」に参加することで、業務の優先順位付けとスケジュール管理を意識して取り組めるようになったことは成果だと思う。物事に対して柔軟に対応できるようになりたいと思う。そのためにも自分自身の気持ちに余裕を持ちたい。
報告や共有のタイミングが遅れると、チーム全体の進行に影響を与えてしまうことがあるということを行事の準備を通して痛感したので、今後は、情報共有のスピードと正確性を意識して改善していきたい。もう一つは、複数案件を並行して進める際の効率化が、自分の今後の成長ポイントになると考えている。

・日々の関わりの中で、子ども一人ひとりの表情や行動の変化に敏感になることの大切さを改めて感じました。小さな成長や挑戦を見逃さず、言葉でしっかりと認めることで、子どもの自信につながることができるように心がけたい。そして、活動の準備や環境設定が、子どもの集中力や意欲に大きく影響することを再認識した。安全面だけでなく、興味を引き出す工夫や選択肢を増やすことで、主体的な行動が増えることに気づいた。
また、忙しさの中で指示的な声かけが増えてしまう場面があったので、子どもの気持ちを受け止め、対話を通して考えを引き出す関わりを意識することで、より安心して過ごせる環境を作っていきたいと思う。

・健康支援の項目で、学校保健安全法などの法令やガイドラインを踏まえた対応ができているかというところで、普段から目にするものではないので、研修で習っても身についているか自信がないところだと感じた。

・園生活を送る際に直ちにきまりを伝えたり、守らせたりするのではなく自らきまりの大切さに気付くようにしているかという項目があり、ルールや生活の流れや生活習慣などを伝える際に押し付けになっているのかなと考えさせられた。自分で気付けたことに対しては子どもたちもやる気がでたり、行動に移したりしやすいと思うので、子どもの年齢や状況によって、声掛けの仕方を工夫していきたい。

・自園でも毎月地震や火災など様々な想定で防災訓練を行っているが、園周辺のハザードマップについてや過去に起きた災害についてなどを職員が知る機会はほとんどないと感じた。災害が起きた際に子どもたちの命を守ることが第一であるが、過去の災害にも目を向け万一の際にどう活かせるかを話し合う機会を持つことも非常に大切であると感じた。

・事務所勤務の中で、保護者の子育て支援が必要な場面が増えてきていると感じるが、自分が対応する際に上手く対応できていないと感じることが多い。先輩職員の対応の仕方を見て、声の掛け方や対応の仕方などを自分の対応にも取り入れていきたいと思う。保護者から信頼を得るには、日々の関わりも大切であるため、自ら積極的に声を掛け関わっていきたいと思う。

・健康について、私は受け入れることが多いのでより受け入れの時に保護者からの心配事などをしっかりと聞いて、日々の子供たちの体調の変化を感じたいと思いました。それ以外の何気ない会話が保護者とのコミュニケーションに繋がるとも感じ、保護者といろいろな会話ができるように心掛けたいです。

・言葉について、まだ話せない未満の子供たちの気持ちを受け止めつつ、言葉がうまく出るように援助することで、以上時児になった時も自分の気持ちを伝えることができるようになると思います。今はまだ一語や二語文を使いはじめたばかりなので、自分の気持ちを伝えることができるように保育職員から会話していき、子どもたちが話したいという気持ちになって思いました。